

北海道における豚の多包虫症発生状況

Incidence of Swine Multilocular Echinococcosis in Hokkaido.

石下 真通

Masamichi Ishige

1982年末、作井等は網走地方で飼育された豚に多包虫性結節病巣を認めた。¹⁾これは、網走地方がそれまで多包虫症非汚染地区であったことに加えて、家畜の多包虫症が本邦でそれまで認められていなかったことで意義深いものであった。その後、1983年7月末までに東藻琴食肉検査事務所で検査した豚58,567頭中34頭に多包虫性結節病巣が認められ、¹⁾網走地方一帯における多包条虫の侵淫がうかがわれた。この新たな事態に応じて行なわれたエキノコックス症媒介動物調査によって、一部感染豚舍周囲で捕獲された野鼠に高率かつ濃厚な多包虫感染が認められたこと、²⁾同地方で捕獲されたキツネにこれも高率かつ濃厚な多包条虫寄生が認められたことにより、網走地方において多包条虫の生活環が確立維持されていることが確認された。このことは、豚の多包虫症が本条虫侵淫地域の拡大を知る有力な手掛りとなったことを示している。その後も北海道内各地で豚の多包虫症が次々と発見されていることから、これを本条虫の侵淫地域の拡大を知る手掛りとして利用するために現在の発生状況をまとめてみた。

1982年12月から1984年3月末までに全道各地の食肉検査事務所及び保健所で検査した豚のうち、肉眼的に特異な結節病巣を認めた608例の肝臓について、ヘマトキシリソ・エオジン染色並びにPAS染色が施された病理組織標本が作成され、類症鑑別のため当研究所に送付された。このうち377例の病巣が多包虫性結節病巣であることを確認した。³⁾⁴⁾⁵⁾これらの病理組織学的所見はこれまでに記載されたそれに包括されるものであった。

尚、病理組織標本を送付された食肉検査事務所及び保健所は次のとおりである。東藻琴食肉検査事務所、旭川食肉検査事務所、帯広食肉検査事務所、早来食肉検査事務所、北見保健所、八雲保健所、釧路保健所、中標津保健所、市立函館保健所食肉検査所。

送付された608例の病理組織標本中多包虫の存在を指摘できた377例について飼育地区別及び剖検年月別にまとめてTable.1に示した。この結果は3市22町3村で豚多包虫症の発生が確認されたことを示している。このうち、中標津町、標茶町、弟子屈町、別海町、浜中町及び釧路町を除く全市町村が従来の多包虫症非汚染地区であった。これらの非汚染地区でその後に行なわれたエキノコックス症媒介動物調査において、東藻琴村、網走市、津別町、斜里町、八雲町及び砂原町で捕獲された野鼠²⁾³⁾のうち19例が多包虫に感染していることが確認された。これら野鼠多包虫症例の大部分は本症癥患豚飼育豚舍の周囲で捕獲されたものであった。また、東藻琴村、美幌町、網走市、津別町、小清水町、女満別町、常呂町、斜里町、清水町、八雲町、森町及び砂原町で捕獲されたキツネの26%が多包条虫を保有していることが確認された。³⁾このことは本症癥患豚の飼育地において多包条虫の生活環が確立維持されており、その生活環の中に受動的に繰り込まれた豚に多包虫感染が起ったことをはっきりと示している。

野鼠の多包虫感染例或いはキツネの多包条虫寄生例の発見は、上記地区の場合、豚のその発見後の疫学調査でなされたものであり、北見市、佐呂間町、端野町、訓子府町、鶴居村、中札内村、長万部町、上磯町、北檜山町、函館市においても、今後野鼠或いはキツネの感染例が発見される可能性は強いと考えられる。このことは、本条虫の侵淫に関する豚の情報が野鼠及びキツネのそれに先行する可能性が強いことを示している。この理由として、飼育されている豚のほとんどすべてが検査対象となること、キツネ及び野鼠の捕獲時期が限られること、キツネの行動圏が広いこと⁶⁾、野鼠の多包虫感染個体の棲息地が限局しているらしいこと⁷⁾が考えられる。

地区別の発生数では佐呂間町が最も多く76例を示し、網走市75例、東藻琴村46例、八雲町34例、北見市33例及び津別町の22例が続いた。北見市及び佐呂間町を除くこれらの

Table 1. Incidence of Swine Multilocular Echinococcosis in Hokkaido.

Locality	1983												1984					Total
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
Higashimokoto	1	2	4			1	2	3	6		1	9	7	4	2	4	46	
Bihoro				1				1	1		1		1	1	1	1	8	
Abashiri					2	1	4	1	2	16	19	17	6			7	75	
Tsubetsu					2		3			3		4	8	2		1	23	
Koshimizu					1	1	1	1			1		2	1			8	
Memanbetsu								2	2						1		5	
Tokoro								2	1								3	
Shari									1	2					1		4	
Kitami								2	6	5	14	4			1	1	33	
Saroma									1		41	28	5		1		76	
Tanno									1	1							2	
Kunneppu															1		1	
Nakashibetsu															1		1	
Teshikaga								3									3	
Bekkai								1									1	
Hamanaka									1								1	
Kushiro (chou)					1										1		2	
Tsurui												4	8	4			16	
Nakasatsunai											1						1	
Shimizu						1											1	
Yakumo							1			3	3	4	7	6	10		34	
Mori										1			4	9			14	
Oshamanbe											2						2	
Sawara										2	3	2	1	1			9	
Kamiiso													2				2	
Kitahiyama														1			1	
Hakodate												1			3		4	
Shibecha														1			1	
Total	1	2	4	1	5	3	15	14	22	27	80	68	40	23	28	44	377	

地区において、野鼠及びキツネは高い多包虫及び多包条虫感染率を示した。²⁾³⁾しかし、佐呂間町及び北見市ではこれら動物の感染例は得られていない。このことから、豚の多包虫症例数でもってある地区における本条虫侵淫度を推定するには無理があるものと思われる。

また豚における多包虫症発生の季節的変動を知るために、その発生数を年月別に示した。しかし、現時点ではまだその検討を行うのに十分な一定した試料が集まっているとは言えない。これは、今後の検討課題である。

今後さらに全道的な多包虫症に関する疫学調査が行なわれて行くものと考えるが、その際、豚多包虫症がもたらす連続し、一定した情報は増々重要性を持つであろう。

文 献

- 1) 作井睦子 他：北獣会誌, 28, 10(1984)
- 2) 八木欣平 他：第96回日獣学会講演要旨, 87(1983)
- 3) 北海道エキノコックス症予防対策協議会：会議資料(1984)
- 4) Lukashenko N. P. : Arch. Environ. Health, 17, 676(1968)
- 5) Lukashenko N. P. : Int. J. Parasitol., 1, 125 (1971)
- 6) 阿部 永：北海道衛生部研究事業報告(1971)
- 7) 神谷晴夫 他：寄生虫誌, 26, 148(1977)